

学校法人藤田学院 認定こども園 鳥取短期大学附属こども園

認定こども園鳥取短期大学附属こども園は、JR倉吉駅の東に位置する鳥取短期大学と鳥取看護大学のある小高い山の上の開けた丘陵地にあります。こども園は、背後を「ちくちく山」と「はくちょうの丘」に囲まれ、園舎とつながる「なかよしの庭」とともに、体験と創造の場となり、園児たちは、その豊かな自然の中でのびのびと遊び、園での生活のゆとりを広げ、心と体を育んでいます。



園児たちは、ちくちく山の急斜面の「ロープ登り」に何度もチャレンジしていました。

HOTeye

心と心のかよいあう福祉の情報誌

2024 Vol.117

- P1 **特集** 社会福祉事業所紹介
子どもたちが成長する喜びを
分かち合える魅力
学校法人藤田学院
認定こども園 鳥取短期大学附属こども園
- P5 チャレンジ福祉の仕事
学校法人藤田学院
認定こども園 鳥取短期大学附属こども園
- P6 福祉職場で働く専門職の紹介
絵本をとおして子どもたちの好奇心や創造力を育む
「司書(図書館司書)」
- P7 福祉人材センター情報
福祉の職場で働きたい方と人材を求める
事業所との橋渡しをしています

- P8 ボランティア・市民活動センター情報
とっとりボランティアバンク登録団体紹介
関金小学校読み聞かせグループ
「わくわく」
- P9 ボランティア・市民活動センター情報
自分たちの“楽しい”を
子どもたちの“たのしい”につなぐ
鳥取市男性保育士会「じゃんぐる☆じむ」
- P11 ことぶき高齢者情報
生きがいや健康、仲間づくりの活動紹介
- P12 ことぶき高齢者情報
いきいきシニア
- P13 鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ

子どもたちの心と体を育む「山」に抱かれて



鳥取短期大学附属こども園の裏山「ちくちく山」の
斜面の山肌を一生懸命に登る園の子どもたち

子どもたちが成長する喜びを分かち合える魅力

鳥取短期大学附属こども園の特微的なところは、松が生い茂ることから名付けられた「ちくちく山」や展望台や園の菜園がある「はくちょうの丘」の起伏に富んだ丘陵地帯が園のすぐ後ろにあり、広々とした園庭（なかよし庭）とともに、園児の暮らしを豊かに広げる「山」があることです。

その山からは、栗やキウイが採れ、

菜園ではサツマイモや大根、スイカなどを園児たちが植付けて栽培し、収穫した食材を給食に用いるなど、自然の恵みと喜びを感じられる「食育活動」にも役立てられています。

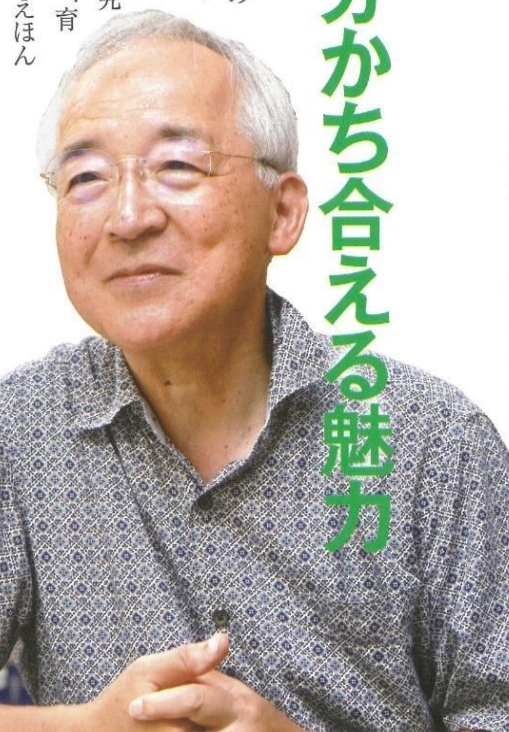
子どもたちの好奇心や探究心をくすぐる仕掛け

ちくちく山では、大人でも尻込みしそうな急な坂を登る「ロープ登り」が子どもたちは大好きです。ロープを使わないで山肌を登る子どももいますが、子どもたちが声を掛け合ったり、助け合ったりして登る姿を見ると、こんなところで粘り強さと思いやりのあるやさしさが育まれているのだと感じます。



図書室「えほんの部屋」

そんな子どもたちを見守る横濱純一園長は、「自然豊かな環境の中で、多様な活動ができることが本園の魅力です」と、笑顔を見せます。



学校法人藤田学院
認定こども園
鳥取短期大学附属こども園
よこはま じゅんいち
横濱 純一
園長

また山での活動とともに、子どもたちの好奇心や探究心をくすぐり、育んでいるのが「えほんの部屋」という図書室です。蔵書は約5,500冊で、司書による貸出しと管理から、レファレンス（情報相談）、読み聞かせなどが行われています。「幼稚園・保育園やこども園に図書室があるところは少なく、司書が配置されているところも少ないと聞いています。これも本園の特徴的なところですよ」と、横濱園長は誇らしそうに話します。

このほかにも、子どもたちのチャレンジ意欲や集中力などを育む、竹馬こま回し・なわ跳びの継続的な活動など、プログラムは多彩です。

楽しく交流する中で学びの幅を広げる

こども園は、同じ法人内の鳥取短期大学と鳥取看護大学との連携交流ができる大きなメリットがあります。

す。課外活動の「はくちょうクラブ」では、大学の教授などによる、英語あそび・歌あそび・粘土あそび（陶芸）・運動あそびなどに取り組み、学びの幅を広げています。

また、短期大学幼児教育学科1年生全員の教育実習の受け入れ、看護大学の小児看護学実習3年生の受け入れのほか、大学祭「シクナス祭」に参加しての舞台発表、短大の食物栄養専攻の学生とのクッキング



クッキング「おつきみだんご」づくり

職員を信じて、見守りながら一緒に考えていく

こども園では、保育事務処理システムを導入して、手書きからデータ入力に切換え、職員の事務作業の軽減を図ってきましたが、今年度はさらなる軽減策として、タブレットを使ったクラウド型の最新システムの導入を予定しており、ペーパーレス化、キッズシユレス化を目指しています。

また、一カ月の残業時間の目標を20時間未満に設定し、見通しを持って業務に取り組むようにしています。令和5年度の残業時間は、令和4年度比で15%減少し、退勤しやすい環境づくりにつなげています。

副園長の福井真由美さんは、「少しずつ働き方改革を進め、先生が元氣なこども園にしたいと思っています。環境整備はもとより、職員が力を合わせて取り組むことで連帯感や一体感が生まれ、職員間の良好な



副園長の福井真由美さん



はくちょうクラブ「英語あそび」

関係づくりとなり、スムーズなコミュニケーションが保育を行ううえで、子どもたちにプラスとなります」と話します。

そして「職員同士、試行錯誤しながら取り組み、反省し改善して、さらに取り組むことで生まれる達成感があります。その大変さを乗り越え、と次への意欲につながる、職員を信じて任せ、見守りながら一緒に考

このほか、保護者36名が加入する「おやじの会」もあり、羽衣山登山・バーベキューなどの野外活動から、プールのペンキ塗りなどの環境整備、レクリエーションなど、みんなで楽しむ交流活動が活発です。

Challenge チャレンジ福祉の仕事

学校法人藤田学院
認定こども園 鳥取短期大学附属こども園

福祉分野の質的変化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応じて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事に就労し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。

「こども目線」の保育者でありたい

保育教諭 伊藤 佳乃さん



学校法人藤田学院「認定こども園鳥取短期大学附属こども園」

伊藤佳乃さんは、母親が幼稚園教諭であったことから、子どもと関わる仕事に就きたいと、鳥取短期大学で保育士と幼稚園教諭の資格を取得しました。保育の現場にいたときは「子どもたちのエネルギーに圧倒され、そのエネルギーに負けない体力のいる仕事だ」と思いました。

現在2歳児を担任していますが、3歳未満児は生活面に大人の助けが必要とする部分が多く、食事や着替えなど生活面の支援にも重きを置いています。

その中で、子どもたちが自分でやってみようと思えるように促したり、やり方として見守っています。保育教諭の役割は、自分自身に手遊びや保育教材のレパートリーが少ないので、増やしていけるようにしたいと思っています。

そして、こども園の大きな行事のたびに、職員団結力の強さを感じています。

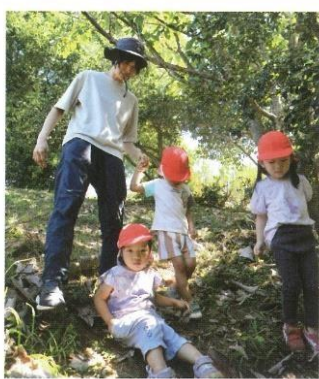
また、運動会に向けて「竹馬チャレンジ」の練習をする中で、「なかなかうまく乗ることができない友だちに、子どもたちが自主的にコツを丁寧に伝え、励ましながら一緒に練習をして、乗れるようになった時に、自分のことのように喜ぶ子どもたちの姿にジーンとききました。子どもたち

と話す伊藤さんは、「職場では意見も言いやすく、いい雰囲気ですが、子育て家庭の職員が大半となっていて、このことから、もつ仕事の効率化を考えていく必要があると思っています」と、課題も認識しています。

また「同僚の保育者を見ていると、皆さんとても若々しいです。いつもエネルギーがみな子どもたちに回っていると、そのエネルギーをもらって、歳をとりにくいかな？」と、伊藤さんは笑顔を見せます。

「子どもたちから、楽しかった！」という言葉が聞けた時は、とてもうれしいのですが、色々悩みながら子どもたちと関わっていく中で、その子どもたちの成長を感じられた時は、特に大きな喜びとなり、やりがいを感じます」と話す伊藤さんは、どの年齢の子どもでも、その子の思いにきちんと耳を傾けて接することの大切さを分かっています。

これから「こども目線」を意識した保育ができる保育者でありたいと願っています。



また、運動会に向けて「竹馬チャレンジ」の練習をする中で、「なかなかうまく乗ることができない友だちに、子どもたちが自主的にコツを丁寧に伝え、励ましながら一緒に練習をして、乗れるようになった時に、自分のことのように喜ぶ子どもたちの姿にジーンとききました。子どもたち

主幹保育教諭の石村祐子さんは、「子どもが成長していく姿を一番近くで感じることができると、やはり保育者だと思っています。初めての一步や発語、初めての経験のドキドキ感やワクワク感を一緒に体験できるなど、言葉では言い表すことのできないたくさんの感動が日々の生活遊びの中に詰まっていると感じています」と、笑顔を見せます。



主幹保育教諭の石村祐子さん

保育は驚きと感動、そして喜びに溢れている

えていきたいです」と、管理職の立場からの言葉です。



横濱純一園長からのメッセージ

子どもたちは、遊びや友だちとの関わり、絵本などとの出会いをとおして学びを積み重ね、社会性を育んでいきます。子どもたちが成長していく姿は「一大絵巻」を見ているようで、その壮大なスペクタクルに感動・感激の日々です。

保育の仕事はとても楽しく、やりがいがあります。子どもたちの人間性の基盤を形づくる、重要で尊く、社会的使命の高い仕事です。

保育者は、日々、子どもたちの思いや願いを受け止め、愛情をもって正面から向き合っています。その中で、目標を達成できた時のうれしさを子どもたちと共に喜び合えたり一体感を感じたりしたときは、保育者としての大きな喜びとなり、やりがいにつながります。

子どもたちの目が輝き、笑顔があふれ、保護者とともに成長の喜びを分かち合える魅力ある保育の世界が、あなたを待っています。



主幹保育教諭の濱田久美さん

ちの一体感がとても感じられ、子どももつて素敵だ」と感動しています」と、うれしそうに話します。

同じく主幹保育教諭の濱田久美さんは、「工夫した環境で、子どもたちが意欲的に目を輝かせながら遊び込んでいる姿を見る時に、深い喜びを感じます。日常生活の中においても、子どもの気づきや驚きを共有できたり、子どもの成長を保護者と一緒に喜び合えたりすることは、とてもうれしいことです」と話します。そして、保護者から育児相談を受け、アドバイスに対して感謝された

へよもぎの香りのエピソード

ある日、高校生から「ちくちく山に行つていいですか？」と、園に電話がありました。高校の体育館でバスケットボールをしているときに、懐かしい「へよもぎ」の香りに気づき、「へよもぎといえば園で作ったよもぎ団子！そしてちくちく山！」と当時を思い出し、遊びに行きたいと、同じ高校の卒園児に声をかけ、5、6名でちくちく山で遊んで帰ったことがありました。

卒園して10年以上も経ち、懐かしさから行つてみたいと思える園であることに喜びを感じ、誇りに思えました。大切な乳幼児期の様々な経験が、豊かな心を育むことを改めて感じられた、心温まるエピソードの一つです。

子どもたちの成長する姿が見られる魅力

学校法人藤田学院「認定こども園鳥取短期大学附属こども園」

保育教諭 中田 修平さん



「中学生時代の保育園でのボランティア活動で子どもと関わったことが保育に興味を持った最初のきっかけで、鳥取短期大学に進み学ぶ中で、より保育教諭を目指したいという思いが深くなった」と話す中田修平さん。

鳥取短期大学で幼稚園教諭Ⅱ種と保育士の資格を取得した後、日本福祉大学で幼稚園教諭Ⅰ種を取得して鳥取短期大学附属こども園に入職。当初は「新入で担任を持たせてもらったので、楽しさもありませんでしたが、子どもたちとの関わりや保育の進め方に迷いや戸惑いが大きかったです」と、不安もあったようです。

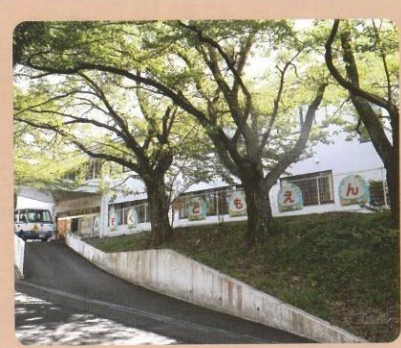
現在は年長組を担任しており、「子どもたちと共に考えながら、遊びや園生活を進めていくことを大切にしたいと思っています。子どもたちの気づきや発見、こつてみたいという思いを大切にしながら共に歩んでいきたい」と、子ども主体の保育教育を心がけています。

その中で、竹馬に乗れなかった子どもができるようになるなど、目の前で子どもたちの成長する姿を見られたり、心の変化を感じられたりすることは、この仕事でなければ得られない喜びであり魅力だと感じています。また、人としての土台作りとなる重要な時

「子どもたちや親御さんから、ありがとう」と言ってもらえた時に、この仕事について良かったと、うれしく思えます。そして、年を重ねても、ここで得たことを活かして生きていけたらいいなと感じています」と笑顔を見せる中田さんです。



【概要】
●所在地／鳥取県倉吉市福庭854
●開設日／1971(昭和46)年開園。2012(平成24)年に認定こども園に移行
●運営主体／学校法人藤田学院
●職員数／36名(正職員19名・臨時職員等17名)
内訳：園長・副園長各1名、主幹保育教諭2名、保育教諭14名、パートナー職員7名、事務職員2名、司書1名、栄養士1名、調理員1名、看護師1名、技術職員2名、医師・歯科医師・薬剤師各1名
●定員／145名
●利用相談窓口／倉吉市、当該施設・運営主体



H0Teyeギャラリー

鳥取ユニバーサルスポーツセンター ノバリア 紹介②



トレーニングルームには皆さんが馴染みのランニングマシンやエアロバイクなどの有酸素機器・筋力トレーニング機器をはじめ介護予防トレーニング油圧マシンなどの新鋭機器を設置しています。車いすに座ったまま使用できるケーブルマシンなど、障がいのある方にも利用しやすい機器を設置しているのも特徴の一つです。資格を持ったスポーツ指導員がトレーニングマシンの操作方法の説明や目的に応じたトレーニング方法の相談にも応じています。気軽に安心して利用いただける環境が整っています。

卓球パレーの起源とルール

卓球パレーは、1970年代に日本で発祥したスポーツです。元々は、筋ジストロフィー症児のために養護学校で始められ、その後、京都市立鳴滝養護学校が中心となり、ルールや用具を工夫・改善し現在に至っています。名前のとおり、「卓球」と「パレーボール」の要素を併せ持った競技です。ルールも「卓球」と「パレーボール」のルールを合成して作られています。1チーム6人ずつ、合計12人が普通の卓球台を囲んで椅子に座って競技を行います。車いすの方は、車いすのままスタンプします。ラケットは長さが30cmほどの長方形の木の板を使います。基本的なルールは、相手の打球を3打以内で相手エリアに返すこと、ボールがネットを飛び越えないこと、同じ選手が2回続

卓球パレー



けて打ったり、ラケットや腕などがネットに触れたり、椅子から立ち上がってはいけません。上肢を動かすことができればどなたでも手軽に楽しむことができます。

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内)
URL <https://www.tottori-wel.or.jp> e-mail soumu@tottori-wel.or.jp

鳥取県福祉人材センター

TEL.0857-59-6336 FAX.0857-59-6341
URL https://www.tottori-wel.or.jp/jinzai/shigoto_top/
e-mail jinzai@tottori-wel.or.jp

鳥取県ボランティア・市民活動センター

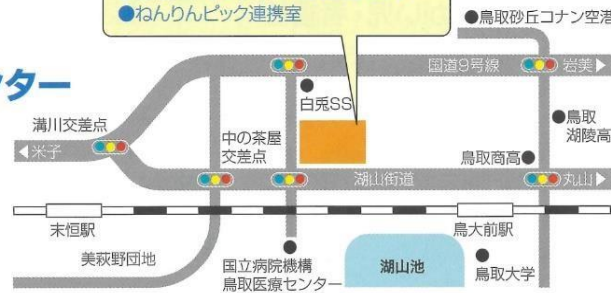
TEL.0857-59-6344 FAX.0857-59-6341
URL https://www.tottori-wel.or.jp/hukushi/vol_top/
e-mail vc@tottori-wel.or.jp

明るい長寿社会づくり推進事業担当

TEL.0857-59-6332 FAX.0857-59-6340
URL <https://www.tottori-wel.or.jp/chiki/kotobuki/>
e-mail kototori@tottori-wel.or.jp

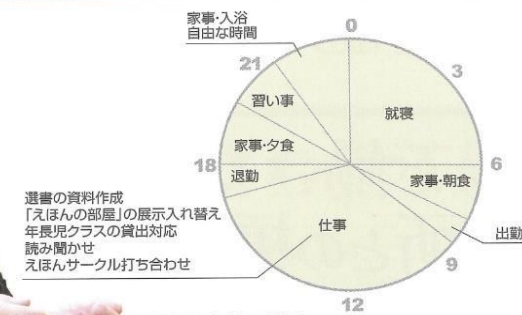
県立福祉人材研修センター

- 鳥取県福祉人材センター
- 鳥取県ボランティア・市民活動センター
- ねんりんピック連携室



福祉職場で働く専門職の紹介「司書(図書館司書)」

絵本をとおして子どもたちの好奇心や創造力を育む



学校法人藤田学院
「認定こども園 鳥取短期大学附属こども園」
よしのぶ きくみ
司書 吉信 菊美

「司書」は、福祉専門職ではありませんが、福祉職場にはさまざまな職種が求められ、福祉資格でなくても福祉職場で活かすことができます。ここで紹介する司書とは、公共図書館や大学、学校などの図書館において、本や資料の分類整理や管理、蔵書の貸出や返却、レファレンス(情報相談)、広報などを行う国家資格を持つ専門職員のことを言います。こども園に図書館があることと、司書が配置されるのも珍しいケースといえます。



子どもたちと絵本をとおして関わりが持てるのが一番の魅力で、入園から卒園まで読んできた絵本で子どもたちの成長を感じられること、絵本が親子で過ごす楽しい時間に役立っていると感じられることが喜びを感じます。

仕事のやりがい、
魅力などを教えてください

現在の仕事の内容を
具体的に教えてください

こども園の「えほんの部屋」の管理運営(選書、図書システムへの登録、貸出、レファレンス、コーナー展示、便りの発行、絵本サークルの活動支援など)のほか、園児への読み聞かせを行っています。

「この仕事に就いて良かった」と
思うのはどんな時ですか?

子どもたち、先生、保護者から、「えほんの部屋」の絵本が面白かった「役に立った」「親子で楽しんだ」などの感想をもらった時は、この仕事をしていて良かったと思います。また、見つけてきた動植物について図鑑などで調べ、それが次の活動につながっていくという、子どもたちの好奇心や創造力を育む活動の手助けができたと感じられる時もつれづれです。

仕事をするうえで
大切にしていることは、
どのようなことですか?

子どもたちの興味関心や、絵本と子どもを結びつける技法(読み聞かせやストーリーテリング(素話)など)を知ることや心がけています。子どもたちは一人ひとりが色々な思いを持っているので、ちよとした言動からそれらをつかみ、その子に合った対応をしたいと思っています。

職場環境と働きやすさについて
どのように感じていますか?

新しい提案を受け入れてもらやすい職場だと感じています。司書として

休日は何をして
過ごしていますか?

月に1回、倉吉市立図書館でのおはなし会で読み聞かせのボランティア活動を行っています。また、書道や写真の教室へ参加しての作品作りや作品展の鑑賞も好きです。夫と二人暮らしなので休日は森山などの近場でドライブを楽しんでいます。



入職した当初に図書システムの導入を提案したところ、その年のうちに提案が通り、図書館のような貸出方法にスムーズに移行することができました。



本誌について、また、福祉に関することについて
県民のみなさまからの御意見をお寄せください。

